

授業科目(ナンバリング)	保健医療サービス論 (DB301) (実践的教育科目)			担当教員	坂本 雅俊 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本講義における授業のねらいは、医療機関におけるMSWの業務について体系的に知り、医療福祉学の基礎を修得することである。MSWの役割と機能と責務、チーム医療の実務について正確な知識を獲得できる。また、患者の尊厳を護るための視点を養うこと、患者の療養生活におけるニーズに対して、社会福祉の視点から援助するための「知識と技術と職業倫理」について知ることができる。狙いを実現するために、テキストを十分に読むことと、小テストを課す。介護福祉士や精神保健福祉士を目指す学生にとっても、医療機関との連携を行うために必要な「医療福祉の生成史、発達史、相談援助の範囲と職業倫理、方法論」を知ることができる。将来、MSWを目指す学生にとっての職業選択に役立てることができる。							①②⑥⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	医療福祉学の生成・発達史や保健医療福祉制度についての知識を持ち、説明できる。				定期試験	80%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	保健・医療・福祉の制度を活用して、患者の療養生活相談の事例検討のワーキングに取り組める。そして、MSWの業務と医療福祉学の本質を理解できる。				小テスト、ワークカード・授業ノートの提出	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>予習として事前に指示したテキストの頁を読み、受講後に復習を行う。講義のなかで、チェックテストとして「小テスト」を数回行い、「ワークカードの提出(数回)」を課し、15回中1回以上のノート提出を課し、返却することで学修内容をフィードバックして評価する。これらで、20点とする。定期試験は40問、80点満点で評価する。数名分のワークカード内容を授業で紹介し学生の共有知識とするため、授業内でフィードバックし評価を行う。</p>							
授業の概要							
<p>講義の進め方はテキストを軸として行うので、学生はテキストで学習した内容をさらに深めて復習すること。講義内容を学生がノートすることを必須とし、ノートは提出を課すので、授業ノートを必ず用意すること。この授業は、医療現場で医療ソーシャルワークの経験をもつ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：中島裕 編著「保健医療サービス」(2017) ミネルヴァ書房</p> <p>参考書：社会福祉士養成講座編集委員会編「新社会福祉士養成講座第17巻 保健医療サービス」中央法規出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>テキストを事前に読み予習を行うこと。復習時は講義内容について自ら調べなおし、ポイントを整理して理解を深めること。紹介した文献を図書館へ通い、読んでおくこと。そのためにも、板書や講義ではノートを取り整理しておくこと。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	医療保障とは何か	イギリス、アメリカ、日本における生成史と発展史の概観と医療保障の概要を知る。そして、MSWの業務の枠組みが理解できる。	配布資料を読む。復習は資料から医療費財源を理解する。
2	診療報酬制度について	診療報酬の仕組みを知ること、医療ソーシャルワークの機能について学ぶ。	予:配布資料を読む。 復:医療保険制度を理解する。
3	薬価基準、DPC、PDPSについて	診療に伴う支払制度、退院支援に関わるSWについて学ぶ。	予:配布資料を読む。 復:相談面接の意義を理解する。
4	チーム連携と協働について理解する	経済、心理・社会的、受診・受療援助、退院・社会復帰、地域活動援助の業務について理解できる。	予:配布資料を読む。業務指針の「業務内容」を読む。 復:事例についてノートをみる。
5	患者の権利について	専門職の基本姿勢として、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、コンプライアンスについて理解できる。	予:テキスト第 5 章を読む。 復:自己決定について整理して理解する。
6	業務指針について	医療ソーシャルワークの業務指針、倫理綱領について、業務標準に沿って学ぶ。	予:テキスト第 6 章を読み予習する。復:業務指針と倫理綱領を理解する。
7	戦後のMSWの歩み	イギリス、アメリカにおける医療ソーシャルワークのあゆみと、医療福祉学との違いについて理解する。	予:テキスト第 7 章を読む。 復:MSW の発祥について図書館で調べる。
8	医療ソーシャルワークの価値と倫理	医療ソーシャルワークにおける価値と倫理綱領について学ぶ。	予:テキスト第 8 章を読む。 復:行動規範も合わせて理解する。
9	アメリカのMSWの歴史	キャボットの功績や 1900 年初頭の都市社会背景を踏まえて学ぶ。	予:配布資料とテキスト第 9 章を読む。復:資料をノートにまとめること。
10	医療ソーシャルワークの専門的技術	スーパービジョンについて理解し、心理・社会的問題の解決に関して学ぶ。実務経験を踏まえたSVの展開から学ぶ。	予:テキスト第 10・11・12 章を読む。復:SV の実際を事例と共に理解する。
11	医療連携・チーム医療の推進と精神保健福祉士	精神疾患患者の治療と支援方法を知り、コラボレーション、チームワークの推進について学ぶ。	予:テキスト第 11 章を読む。 復:精神科領域について調べ理解すること。
12	公費医療、医療環境について	公費医療の概要を知り、疾病・事業毎の医療連携体制の 5 疾病・5 事業、在宅医療、高度専門医療研究センターの役割について学ぶ。	予:配布資料を読む。 復:高度専門医療研究センターを深く理解する。
13	医療ソーシャルワークの持つ力動性	ダイナミズムについて知り、ネットワーキングの重要性を理解する。クライアントの療養生活事例を通して学ぶ。力動性の情動は、実務経験を踏まえた授業から学ぶ。	予:テキスト第 16 章を読む。 復:他職の資格について調べ理解する。
14	外国人への医療支援	医療通訳派遣システムの構築、外国人の治療環境の連携について知る。	予:テキスト第 13 章を読む。 復:家庭復帰事例を理解する。ノート提出
15	患者の権利と医療職者の各倫理綱領と電子カルテ	尊厳死、ヒポクラテスの誓い、ナイチンゲール誓詞、その他、電子カルテの使用法についてまとめとする	予:テキスト第 15 章を読む。復:医療の社会化について理解する。
16	定期試験		